

山神魂で復活!! 11年ぶり 同志社アトム

準決勝VS東海大1月2日12時20分@東京・秩父宮

〒602-8580 京都市上京区新町上立赤西入ル西大路町
TEL075-251-3185 ©同志社大学体育会機関紙

Doshisha Sportsアトム

平成28年(2016)〈号外〉同大早大撃破で4強
12/22 木曜日 発行人 辻井智紀 編集人 小林洋貴
http://doshisha-atom.net/

同志社	47	早大	31
5 T	0	14	33
4 G	0	31	0
0 P	0	31	0
33 前	0	31	0
2 T	5	3	0
2 G	3	0	0
0 P	0	0	0
14 後	31	0	0
47 計	31	0	0

闘走蹴
RUGBY FOOTBALL
大学選手権
場々進々
決勝
◇12月17日
◇大阪府・花園ラグビー場

関西2位として大学選手権に出場した同志社が、11年ぶりの4強入りを決めた。前半に5トライを奪う猛攻で早大を突き放した。公式戦で早大に勝利したのは17年ぶり。1月2日の準決勝で東海大と対戦する。



前半3 石田トライ
前半16 山田トライ
前半22 崎口トライ
前半40 安田トライ
後半4 丸山トライ
後半34 永富農トライ



前半34 松井スーパートライ

7トライの猛攻で17年ぶり選手権早大戦勝利

ウツからのサインプレーでトライを決めた松井(左から2人目)を祝福する同志社フイフイティーン。(撮影・西村健汰 切り込み写真は、就任4年目にして初の選手権4強入りを決めた山神監督)

歴史的胜利
タックルの嵐が赤黒シャージャの心を、へし折った。「GO DOSHISHA GO!」紺とクレイに染まったスタンドを味方につけて、何度も、何度も懐に飛び込んだ。17年ぶりの早大撃破、11年ぶりの全国4強入りを果たした直後、山神監督はこう述べた。「学生たちとは一番長く時間を過ごしてきた。黄金世代と称された現4年生が入学と同時に監督就任。個性を伸ばす指導を心掛けてきた。4年間の真価を証明する確かな勝利をつかみとった。先発15人中9人が昨年の大学選手権、大東大戦で2点差の前に涙を流した。屈辱のあの日に思いをはせながら、「172人が愛せるチームになった」と山田主将(社4)は頬を緩ませた。

「日本一へ」
山田組はついに全国4強の壁を越えた。昨年の成績を超え、さらなる高みへと歩みを進める。前主将が残した「2点差の意味」の問いは、ようやく答えにたどり着いた。「172人で戦う。そして日本一へ」。山田主将は覚悟を言葉にかきこむ。12月17日、聖地が記憶し、記録した勝利。紺クレの歴史への挑戦が始まった。(小林洋貴)

仮想早稲田
早大戦に向けて、テクニカル陣が徹底分析し、傾向や癖をBチームに落とし込んだ。1週間という短い準備期間で「仮想早稲田」のBチームと実戦練習を重ねてきた。「分析とチームの練習のおかげで勝てた」とCT B石田(商4)は勝利を話す。前半12分、Fライナー

◆同志社-早大得点経過◆

時間	同早	選手	得点プレー	G
3分13		石田	崎口からのパスを受けトライ	○
16分4		山田	ラックサイドを攻めトライ	×
22分15		崎口	こぼれ球を拾いトライ	○
34分	同14	松井	トライ	○

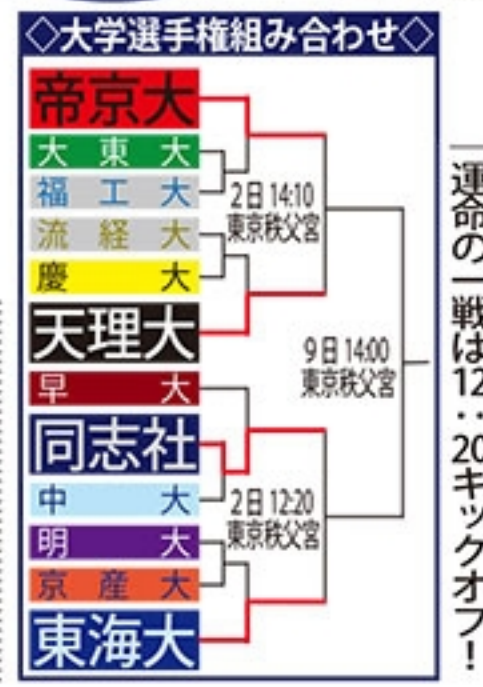
ラインアウトからのスペシャルサインが決まりトライ



◆早大戦のボール支配率◆

前半	早	同
49%	51%	同
後半	早	同
78%	22%	同
合計	早	同
63%	37%	同

- ◆同志社の早大戦布陣◆
- ① 越 ② 中尾 ③ 海士
 - ④ 山田 ⑤ 堀部
 - ⑥ 丸山 ⑧ 末永 ⑦ 野中
 - ⑨ 大越 ⑩ 永富健
 - ⑪ 安田 ⑫ 永富農 ⑬ 石田
 - ⑭ 松井 ⑮ 崎口
- 山神孝志監督



レイアウト 西村 健汰

同	中	同志社
3	0	42
2	0	
0	1	
28	前	3
2	0	14
2	0	28
0	0	0
14	後	3
42	計	3
		中大



PR海士独走

中大戦勝利 8強進出



独走する海士(商4)

FW戦圧勝

関東大学リーグ戦4位の中大をノットライに抑え、42-13で下した。「立命大戦からディフェンスをもう一度見直した」(山田主将・社4)。ダブルタックルと素早いサポートプレーで接点にプレッシャーをかけ、中大のペナルティを誘った。ディフェンスから流れを作った同志社は前半10分、安田(商2)のピックゲインからサポートについていた末永(社4)へわたり先制トライ。ようやく攻撃の歯車が動き始めた。同20分には得意の展開ラグビーでサイドへ散らし、松井(スポ4)がフィニッシュ。28分にはPR海士がラックから持ち出し、40mを独走。最後はインゴールへと転がりこんだ。ペナルティをもらつとショットを選択し、確実に3点を積み重ね、前半から中大を突き放した。

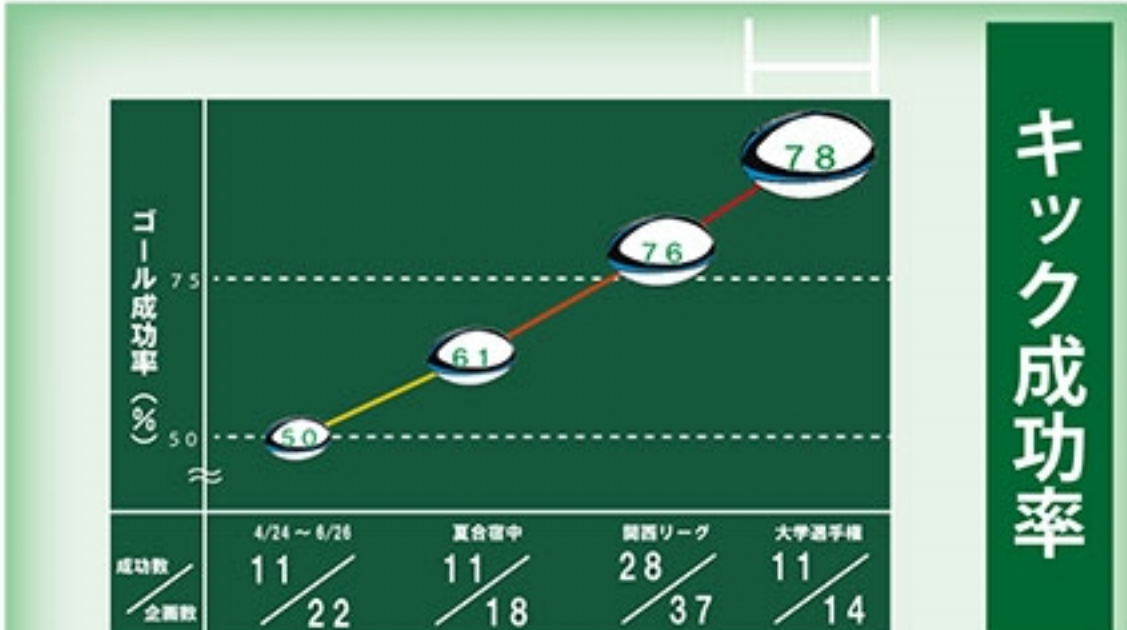
◆中大戦のボール支配率◆

前半中	47%	53%	同
後半中	44%	56%	同
合計中	45%	55%	同

◆同志社の中大戦布陣◆

①趙	②中尾	③海士
④山田	⑤堀部	
⑥丸山	⑧末永	⑦野中
⑨大越	⑩永富健	
⑫永富晨	⑬石田	
⑭佐藤	⑮安田	⑯松井

山神孝志監督



キック成功率

最高潮の歓喜に包まれたスタンドも、トライ後のキックは静まりかえる。張りつめた空気の中、見守る者すべてが固唾をのむ。こうして永富健太郎(スポ4)の右足から放たれる楕円球はゴールポストの間を通り抜けてゆく。地道に、だが確かに積み重ねられる2点は紺GREの勝利へと導く。

定期戦、練習試合、関西Aリーグ、大学選手権合わせて19試合でSOを務めた。春の6試合はゴール成功率50%と低迷。彼にとって大学最後の夏合宿は正念場だった。東海大、筑波大など強豪校との練習試合4戦では61%と一歩前進。そして、夏を乗り越えたAリーグでは37本中28本成功の76%という驚異の数字を叩き出した。着実な成長を遂げ、選手権2試合では早大戦の大量PGも加勢し、成功率78%とその技術は盤石なものとなった。

昨年の選手権、対大東大戦は終盤のゴールの2点差で4強への道を断たれた。それだけに紺GREはゴールの2点の大きさを身をもって知っている。想いを乗せた楕円球が描く放物線は勝利への架け橋となる。(佐藤 真衣子)



トライ!



転がって...

4強入りの舞台裏

寒気を切り裂くタックルがノーサイドまで、赤黒のジャージーに刺さり続けた。勝利を決め、メンバーはスタンドへ駆け寄った。視界の先には100人を超える仲間たち。部員全員で喜びを爆発させた。戦前の予想を覆す快勝。今年の紺GREは何かが違う。違いを生んだ何かとは、チーム全体でのスカウティングだ。

快進撃の序章は試合1週間前から始まった。テクニカルを中心に一丸となって、ワセダを分析した。Aスコッドのメンバー外選手は、全体練習1時間前からライバルの動きを習得するべく、特訓に励んだ。コーチ陣や控え選手も協力し、動きのコピーに成功。万全の態勢で全体練習に臨んだ。実戦練習では相手キーマンの名前を記したビブスを着用し、メンバーと向き合った。相手の縦突破、パス

回し、ゲームプランを再現し、質の高い実戦練習を実現した。1人1人が出来ることをやり抜く。部員172人全員が人事を尽くし、天命を待った。

運命の同早戦、控え部員の応援を背に、早大に挑戦した。スカウティングは見事にはまった。素早いパス回し、機動力抜群のFW陣は対抗戦では稀少。序盤から赤黒の鎖を破壊し、前半で5トライを奪った。後半は、ディフェンスで魅せた。追いつかるワセダに対し、攻撃パターンを読みきり、タックルで反撃を封じこめた。

スカウティング通りの試合運びが、予想外の快勝をもたらした。「172人がしっかりと仕事をした結果」(LO山田主将)。部員全員で、正月越えの切符を勝ち取った。大学王者まであと2勝。山田組を頂点に導く、サムシング・ディファレントはスカウティングに宿る。(新谷 諒真)

Bチームの奮闘

レイアウト 伊藤 映里